



EVRI

教育ビジョン研究センター

ISSN-L(PRINT): 2435-8134 ISSN(ONLINE): 2435-8037

EVRI研究プロジェクト叢書 Vol. 9

Bulletin of the EVRI Research Project (Vol. 9)

2021年度東広島市広域交流型 オンライン地域学習

—2021年7月実践「スーパーと直売所、
どこが違う？どこが同じ？」—



目次 CONTENTS

1. プロジェクト全体計画 03

2. 実施要領 07

3. 資料 13

板書計画

ワークシート

福富町の地名としゃくなげ館の位置

東広島市内のスーパーマーケットの分布

4. 実施報告 17

5. 児童用アンケートの結果 21

自由記述

量的データの単純集計

6. 担当者・協力者一覧 27

1. プロジェクト全体計画

はじめに

本叢書は、2021年度に広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)と東広島市教育委員会(学校教育部情報教育推進室)の「協働」で実施された「広域交流型オンライン社会科地域学習」の成果を、月別に報告するものである。

詳細は、EVRIのホームページの実施記録に譲ることとして、ここでは「協働」の中身について紹介し、本プロジェクトの意義を指摘したい。

第1に、カリキュラムづくりの協働である。年間計画や毎月のテーマについてはEVRI側で原案を提案したが、最終的な実施計画は、毎月定期的で開催される双方の協議を踏まえて決定された。協議の間では、実施計画書案に基づいて各学級の教師や子どもの動きをシミュレートしたり、各月の研究課題を決めたりして(例えば、T1と子どもと直接対話しよう、学級単位の活動を充実させよう、学級相互の対話を促進しよう)、細部にわたる授業計画の検討と漸進的な授業改善が行われた。

第2に、教師教育の協働である。授業の1週間前には、参加校の教員を対象に教材解釈や授業展開についてオンラインでのガイダンスを実施した。画面上にはEVRIの草原(T1)と市教委の指導主事がスタジオのテーブルに並んで出演し、双方が掛け合いをしながら趣旨説明や質疑応答を行った。あわせて事前のテクニカルな支援を行った。

第3に、学校支援の協働である。授業には、市教委が雇用する技術支援員と、広島大学の大学院生・学部生及びEVRIのスタッフが外向き、授業の運営を支援した。EVRIは必要に応じて教材(写真や統計、ワークシートなど)や機材を提供するとともに、オンラインでの学習環境整備を現場で支援した。

第4に、授業評価の協働である。授業の終了後には、市教委は参加校の管理職や担当教員に、また技術支援員に聞き取りを行い、成果と課題を集約した。EVRIもまた同様に派遣学生から聞き取りを行うとともに、参加校の児童には質問紙調査を行い、結果を双方で共有した。このようにして蓄積されたデータは、次月の実践に活かされた。

このような「協働」が組織的に行われたことが、本プロジェクトの成果と考えている。

読者に注目してほしいのは、本叢書に所収された毎月の記録から見えてくる取組の変化である。実施計画書のフォーマットや提供される教材の量と質は、学校現場の要請や実施の成果を受けて、段階的に変化している。授業中の映像は、ライブ中継の単独から録画との併用へと変わった。中継先は、市内から市外へ、そして世界へと拡大した。T1が授業を行う場所は、中継先のフィールドから大学のスタジオへ、そして参加校の教室へと移動した。これらの変化が意味することの解明は今後の研究に委ねたいが、本叢書はこれらの点を考える基礎的資料を提供していると思われる。

2021年度の成果とその分析は、本叢書以外にも以下の文献に掲載されている。参照していただきたい。

- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を例に－」『中国四国教育学会第73回大会シンポジウム成果報告書・資料集』日本教科教育学会四国地区・中国地区教育学会, 2021年, pp.13-20。
- ・宇ノ木啓太『オンライン学習を導入した社会科地域学習の変革－理解主義の課題の克服を目指して－』広島大学大学院人間社会科学研究科修士論文, 2022年。
- ・草原和博「学びの民主化ツールを活用して地域学習を変革する」『社会科教育』明治図書, 2022年3月号, pp.10-13。
- ・草原和博「越境的対話による教科教育の教室空間の変容－社会科を事例に－」中国四国教育学会『教育学研究ジャーナル』第27号, 2022年, pp.47-52。

なお、本実践にあたっては、市教委や参加校の先生方、中継先の市役所・企業、地域住民の皆様など、多くの方々のご協力をいただいた。広島大学の学生や EVRI のスタッフには、毎月の実施に献身的なご助力をいただいた。広島大学大学院人間社会科学研究科からは、「令和3年度研究科裁量経費・東広島市連携・広域交流型オンライン地域学習支援事業」の補助金をいただいた。初年次でこれだけの成果が得られたのは、上述の関係機関のご支援の賜物である。ここに記して、あらためて御礼を申し上げます。

私自身は、この1年、90分の生放送のテレビ番組を毎月定期的に制作している感覚を覚えた。番組を作ることの難しさと喜びを、そしてチームワークの大切さを実感した。この経験を、今後の教育・研究に活かしていきたい。

2022年3月31日

広島大学教育ビジョン研究センター・センター長
人間社会科学研究科・教授

草原和博

◆ プロジェクトの趣旨

本書は、広島大学教育ビジョン研究センター(以下、EVRI)が、東広島市教育委員会と連携して行う、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習の実践とその成果を報告するシリーズ(分冊)の一部である。

EVRI(センター長:草原和博)は 2021 年度から、東広島市教育委員会と連携して、市内複数の小学校をオンラインで結んだ広域交流型オンライン社会科地域学習を開始した。実践を通して、[GIGAスクール構想](#)の推進によって実現した子どもたちの「1人1台」端末と学校の ICT 環境を活用して、市内各地からの中継を交えながら、東広島市の地理・歴史・政治・経済・文化などについて対話的・双方向的に学ぶことを意図した。さらに、この学びを広島大学の教員と大学院生がコーディネートすることで、実践の円滑な運営を支援しつつ、小学校教員が ICT を活用したオンライン授業を体験し、実践的な知見を獲得することができるよう配慮した。

2021 年度は、2021 年 6 月の試行に基づいて、毎月 1 回 2 時間、テーマを決めて授業を実施した。この企画が実現することで、小規模校と大規模校の子どもが、年間を通して、各地域のようすを比較したり交流したりしながら学びを深められることを意図した。なお、プロジェクトの実施にあたっては、参考コンテンツとして、EVRI が東広島市立図書館の依頼を受けて開発した「[東広島市地域学習用デジタルコンテンツ\(通称「のん太の学び場」\)](#)」を活用した。

[プロジェクト紹介ページはこちら](#)

(右の QR コードからもアクセス可能)

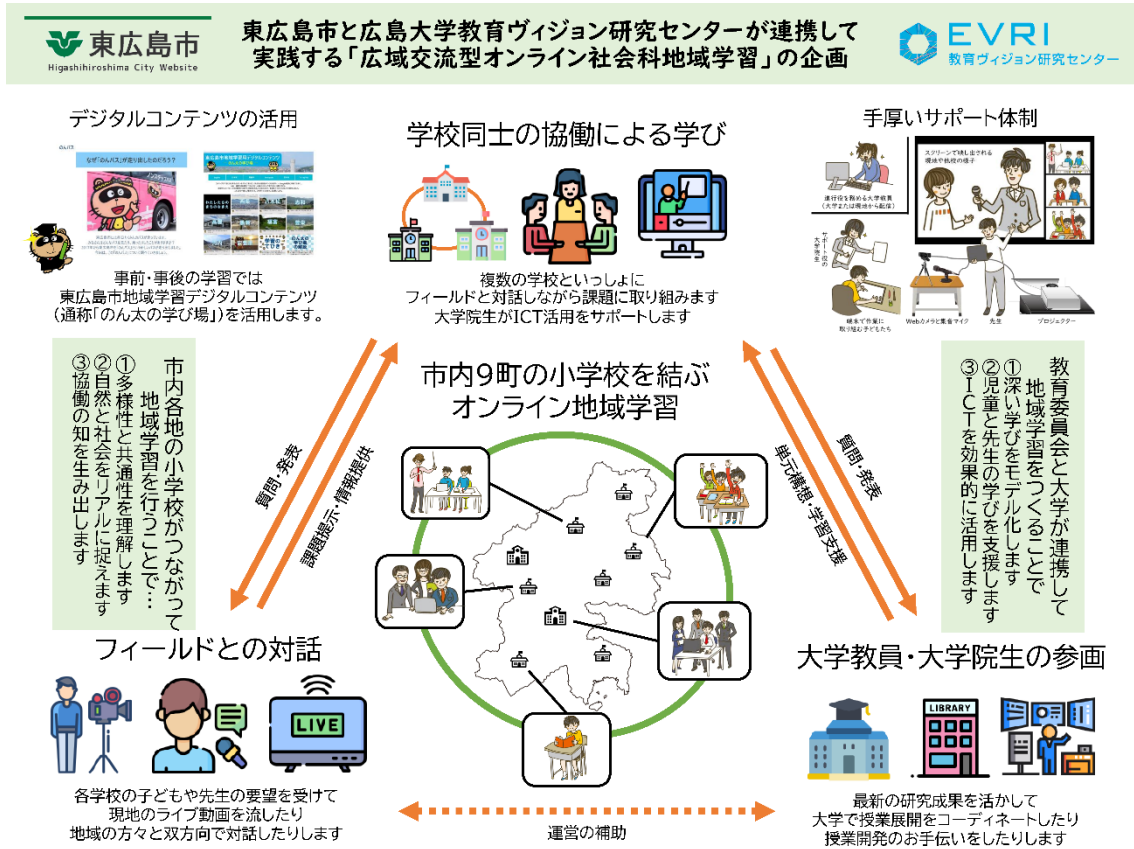


◆ プロジェクトの目的

EVRI が開発した「のん太の学び場」(東広島市地域学習用デジタルコンテンツ)と、東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主体的・対話的で深い学びを創造する。主な目的と実施内容は以下の 4 点である。

- 「東広島市内の小学校」と「学習対象となる地域等」と「広島大学」がオンラインでつながり、遠隔(オンライン)で授業を実施する。
- 遠隔授業の全体進行は、広島大学の担当者が行う。各教室での指導は、各学級の担任等が行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。
- 授業時は、参加校に技術的なサポート要員(大学院生等)を派遣し、授業準備、授業支援、後片付け等を行う。

◆ プロジェクトの実施体制



◆ 実施スケジュール

対象	実施日	単元名
第4学年	2021年6月18日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ! 仲間をさがせ! 「バスを比べよう(1)-ピンクのバスのひみつ-」
第4学年	2021年6月25日	ピンク色のバスのヒミツをさがれ! 仲間をさがせ! 「バスを比べよう(2)-私たちの町のバスのひみつ-」
第3学年	2021年7月15日	「スーパーと直売所、どこが違う?どこが同じ?」
第4学年	2021年9月15日	「さい書から身を守る-さい書でケンなところ,さい書のサインをさがそう!-」
第3学年	2021年10月20日	「高屋に新しい消防署ができるらしいよ...なぜ?」
第4学年	2021年11月17日	「伝とう」って変わっていいの?私たちのまちの伝とうと未来を予想しよう」
第3学年	2021年12月15日	「駅からみるわたしたちの市のあゆみ」
第4学年	2022年1月19日	「外国から来た人にとって東広島市はくらしやすいか?」
第3学年	2022年2月9日	「もしも東広島に大学がなかったら?」
第4学年	2022年3月9日	『わたしたちの東広島市』の表紙にぴったりな写真を選ぼう」

2. 実施要領

東広島市・広島大学教育ヴィジョン研究センター連携 「広域交流型オンライン社会科地域学習」2021年7月実施要項

1. 目的

広島大学教育ヴィジョン研究センターが開発した「のん太の学び場」(東広島市地域学習用デジタルコンテンツ)と東広島市教育委員会作成の小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン社会科地域学習の実施を通して、児童の主眼的、対話的で深い学びを創造する。

2. 実施内容

- 市内の小学校、学習対象となる地域・施設と広島大学がオンラインでつながって、遠隔授業を行う。
- 遠隔授業の全体進行は、大学の担当者(T1)が行う。各教室での指導は、各学級の担任等(T2)が行う。
- 可能な範囲で、参加校には大学より技術的なサポート要員(T3)を派遣し、授業準備、授業運営支援、ICT支援、後片付け等を行う。
- 遠隔授業では、児童が自分のタブレットから参加できる機会を設ける。

3. 授業の日時、参加予定校および目標

- 東広島市内小学校の3年生27学級(880名程度)
西条(5)、板城(2)、吉川(1)、西志和(1)、東志和(1)、小谷(1)、平岩(3)、高美が丘(3)、三ツ城(3)、中黒瀬(3)、龍王(4)
- 2021年7月15日(木)3時間目:10:25~11:10, 4時間目:11:15~12:00

「スーパーと直売所、どこが違う?どこが同じ?」

○ オンライン地域学習の単元目標

【知識・技能】 スーパーと直売所を観察して、どのような商品が、どのように売られているかを書き出すことができる。

【思考・判断・表現】 スーパーと直売所を比較して、①商品の広域性・多様性 vs 地元性・新鮮さ、市場から仕入れ vs 農家から直接仕入れという「違い」はあるが、②いずれもお店の特色をいかして消費者の願いにこたえ、利益を上げていく点では「共通」することを説明できる。

【学びに向かう姿勢】 スーパーと直売所の役割・特色を的確にあらわしたキヤッチフレーズを提案できる。

【ICT】 タブレットを操作して、自分の選択を発信できる。オンライン学習に参加し、教室の中で、ならびに他校に向けて発表できる。

○ 1/2時: スーパーや直売所の映像を読み取り、比較することで、それぞれの店の商品や販売のし方の違いを理解できる(知識・技能)。

○ 2/2時: スーパーと直売所の特色をキヤッチフレーズにあらわす活動を通して、小売店は消費者のニーズに応える個性的な店づくりを行っていること、またそれによって消費者の多様な選択が保証されていることを説明できる(思考・判断・表現)。

4. 授業展開

T1 (草原) の動き	ホスト (広大) の動き	T2 (学級担任) の動き	予想される児童の反応
<p>【第1時】学校とお店で対話する</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生とレポーターの紹介 皆さんの学校ではお店の学習を終えたかな？アンケートの結果をみてみよう スーパー以外にも、東広島にはいろいろなお店があるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をスポットライト 	<ul style="list-style-type: none"> QRコードを読んで、児童の端末にアンケート画面を表示させる 事前に行ったアンケートへの回答を思い出させる 学校別のスーパーの利用状況やお店の多様なカタチに注目させる めあてを唱和させる 	<ul style="list-style-type: none"> いろんなスーパーがあるね みんな近場の(校区の)スーパーに行っている人が多いな お店は、スーパーだけじゃないんだな
<p>めあて: (東広島にある) いろいろなお店の「ちがいが」や「にている」ところを見つけよう</p> <p>1. のん太調査隊 指令! スーパーのみ力を振り返ろう!</p> <ul style="list-style-type: none"> このお店、知っていますか？ クイズ 1日のお客さんは何人？ 品物の数はどのくらい？ 野菜コーナー中継 <p>種類の多さ、産地の広がり、綺麗な包装、冷蔵陳列棚、長い営業時間、地元客多し、附属サービスなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 店長さんに質問ありますか？ こんなスーパーは、どこにでもあるのだろうか？東広島市のどこに集まっている、どこに少ない？ 	<p>「ショージ寺家駅前店」</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパー中継をスポットライト Googleのクイズ画面を画面共有 カウントダウンをする クイズ結果の共有 スーパー中継をスポットライト 質問する学校をスポットライト 東広島市内のスーパーの分布図を画面共有 	<ul style="list-style-type: none"> 指令1を伝える スーパーの位置を地図で押さえる 投票(タッチパネル)を支援する 気づきを板書していく 「大規模小売店」の特徴に目を向けさせる 質問があれば、発言させる →質問時はマイクのミュート解除 	<ul style="list-style-type: none"> 1日にたくさんの方がスーパーに行くんだな いろんな種類の品物が、きれいに、冷たくして並んでいるな 市内からも世界からも、いろんなところから仕入れているな スーパーにはクリーニング屋やカルチャーセンター、ATMもあるね スーパーが集まっているところと、ほとんどないところもあるね

<p>2. のん太調査隊 指令2: 新鮮な野菜を買うことができるのはスーパーだけかな？スーパーのないところでは、どこでお買い物すればいいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このお店、知っていますか？ ・クイズ 1日のお客さんは何人かな？ 品物の数はどのくらい？ ・スーパーにあって、この直売所には「ないもの」をさがそう ・店舗中継 品物の種類、産地や生産者、無造作なプラスチックかご、営業時間の看板、お客さん、付属施設など ・所長さんに質問がありますか？ <p>3. のん太調査隊 指令3: なぜ「●●がない」お店でお買い物をする人がいるのだろう？(近くにスーパーがないからだろうか?)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想を発表してみよう？ ・同じ商品を比べてみよう！ ・お客さんにインタビュー どこからきた？ 何を買い物にきた？ なぜ(スーパーではなく)ここでお買い物？ 	<p>「福富物産しゃくなげ館」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直売所中継をスポットライト ・Googleのクイズ画面を画面共有 ・カウントダウンをする ・クイズ結果の共有 ・直売所中継をスポットライト <ul style="list-style-type: none"> ・質問する学校をスポットライト ・ギャラリービューにする。各学校のようすが俯瞰できるようにする ・発表する学校をスポットライト ・直売所中継をスポットライト 	<ul style="list-style-type: none"> ・指令2を伝える ・直売所の位置を地図で押さえる。 ・投票(タッチパネル)を支援する ・気づきを板書していく ・「農産物直売所」の特徴に目を向けさせる ・直売所に「ないもの(あるもの)」を発言させ、板書していく ・質問があれば、発言させる →質問時はマイクのミュート解除 ・指令3を伝える ・予想を発表させる →発表時はマイクのミュート解除 ・お客さんへのインタビュアーの回答ポイントを板書していく 	<p>(スーパーに比べて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まわりはのどかだな ・お店は小さいな ・お客さんが少ないな (直売店にないのは)。 ・たくさん商品の種類は「ない」 ・外国産の品物は「ない」 ・きれいな包装は「ない」 ・冷蔵庫の陳列棚は「ない」 ・長い営業時間は「ない」 ・いろいろなサービスは「ない」 <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な野菜、とくさん品がほしい ・作った人が分かって安心だから ・ドライブかねて西条から来た ・近くにスーパーがないから来た
--	---	--	---

<p>【第2時】学校と学校がつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の復習 小さなお店を直売所と言います なぜ直売所というのか？ 投票 「夕食用にお豆腐を欲しいとき、 どちらのお店にいく？」 どちらにも魅力があるね <p>1. のん太調査隊 指令4: スーパーと直売所のみカの「違い」 ってなんだろう？ スーパーと直売所 のみかをびったりあらわした「おすすめ めキャッチフレーズ」をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> どちらか選びましょう スーパーと直売所、どちらのキャ ッチフレーズを作りたいかな？ 質問タイム (15分後) お店の人にききたいことがあれ ば、教えてね。 特別見学タイム (15分後) レポーターに見せてほしいところ があれば、教えてね。 ●●小学校の提案 「おすすめめキャッチフレーズ」を 決めて、入力しよう 	<ul style="list-style-type: none"> Googleの投票画面を画面共有 カウントダウンをする 投票結果の共有 <ul style="list-style-type: none"> ギャラリービューにする。各学校の 選択が俯瞰できるようにする 中継箇所をスポットライト 中継箇所をスポットライト <ul style="list-style-type: none"> チャットに入力された各学校のキ ャッチフレーズをパワーポイント に転記していく パワーポを画面共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 直売所のことば(漢字)の意味を考 えさせる。 投票(タッチパネル)を支援する <ul style="list-style-type: none"> 指令4を唱和させる 例：●●なお買い物ができのお店 例：●●を買うならばこのお店 (20-30字程度でまとめる) 素早くクラスを選択を決める 問いかけに合わせて、手を挙げる 途中に質問や特別見学を挟むので、 もし児童から「…について知りた い」「…をもっとよく見たい」とい う希望があれば、随時チャットに 書き込む。 <ul style="list-style-type: none"> キャッチフレーズについて、15分 程度話し合い(個別、班、一斉)、 15分経過以降にチャットに書き込 む。全部で20分程度 	<ul style="list-style-type: none"> 悩むなあ どんな豆腐にするかな スーパーにも直売所にもみ力ある ね。決めること難しいね <p>(スーパーマーケット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ほしいものが何でもそろうお店 楽しくお買い物ができるお店 いろんなどころの品物、たくさんの サービスが売られているお店 地元の人が、いつでも面白い物できる お店 <p>(農作物直売所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新鮮で安全、旬なものがそろう店 地域の人たちをもちあげられるお店 そこでしか手に入らないものが売 られているお店 遠くから遊びや食事がてらに出か けるお店
--	---	--	---

<p>○各学校が考えたキャッチフレーズをみんなで見よう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんで●小学校は、スーパーに… …というキャッチフレーズをつけたの？理由を教えてください。 ・なんで●小学校は、直売所に… というキャッチフレーズをつけたの？理由を教えてください。 <p>2.なぜ(東広島市には)いろいろなタイプの店があるの？スーパーか直売所、どっちかだけでいいんじゃないの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店は全部「スーパー」だけにする →賛成の人？反対の人？なぜ？ ・お店は全部「直売所」だけにする →賛成の人？反対の人？なぜ？ ・なぜいろいろなタイプのお店があるといいの？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する学校をスポットライト ・発表する学校をスポットライト <ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリービューにする。各学校の拳手が俯瞰できるようにする ・発表する学校をスポットライト 	<ul style="list-style-type: none"> ・T1から振られた場合は、代表の児童に、または全員で回答させる。 →発表時はマイクのミュート解除 ・T1から振られた場合は、代表の児童に、または全員で回答させる →発表時はマイクのミュート解除 ・2の問いで子どもを揺さぶる ・賛成か反対か、挙手させる ・T1から振られた場合は、代表の児童に、または全員で回答させる。 →発表時はマイクのミュート解除 ・消費者の「選択」の保証に目を向けさせる 	<p>(発表方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちのクラスでは「○○○○」というキャッチフレーズを考えました。なぜなら・・・だからです <ul style="list-style-type: none"> ・全部「スーパー」になると、農家の人と出会ったり、産地でお買い物したりできなくなる、残念！ ・全部「直売所」になると、県外や世界のいろいろな野菜を食べることができなくなる。かなしい！ ・いろいろなお店があったほうがいいな
<p>まとめ： (東広島にある)いろいろなお店の「ちがいが」や「にている」ところを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡潔にまとめる ・中継先へお礼をいう 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーと直売所の中継2箇所をスポットライト 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の上半分が「ちがいが」、下半分が「にている」ところを表す ・中継先にお礼をいう →マイクのミュート解除 	<ul style="list-style-type: none"> ○違い…店の大きさ、品物の数や種類や産地、ほうそう・売り方、サービス、お客さんの住所など ○にている…買う人の願いにこたえるように品物売って、もうけている

板書計画

めあて いろいろなお店のちがいやにいてるところを見つけよう

スーパーマーケット(ジョージ寺家駅前店)

- ・お客さん多い
- ・営業時間長い
- ・チラシやせんでんわり引きコーナーいろいろなどところから仕入れ
- ・クーリーニング屋やカルチャーセンター

スーパーマーケット(福富しゃくなげかん)

- ・お客さん少ない
- ・営業時間短い
- ・うわさでくるとくさん品コーナー
- ・地元から、しゅんのもの仕入れ
- ・加工の工場や食どう

〇〇〇〇な店 〇〇〇〇な店

**買う人の願いに
こたえる店づくり
→もうける**

買う人が選ぶことができる

副読本p.38の例も参考にしながら記載しています。レポートの内容に応じて精選してください。

各校でオリジナルのキャッチフレーズを考案してください。片方のキャッチフレーズを作り、もう片方は他校の作品からお気に入りを選んで書き込んでください。

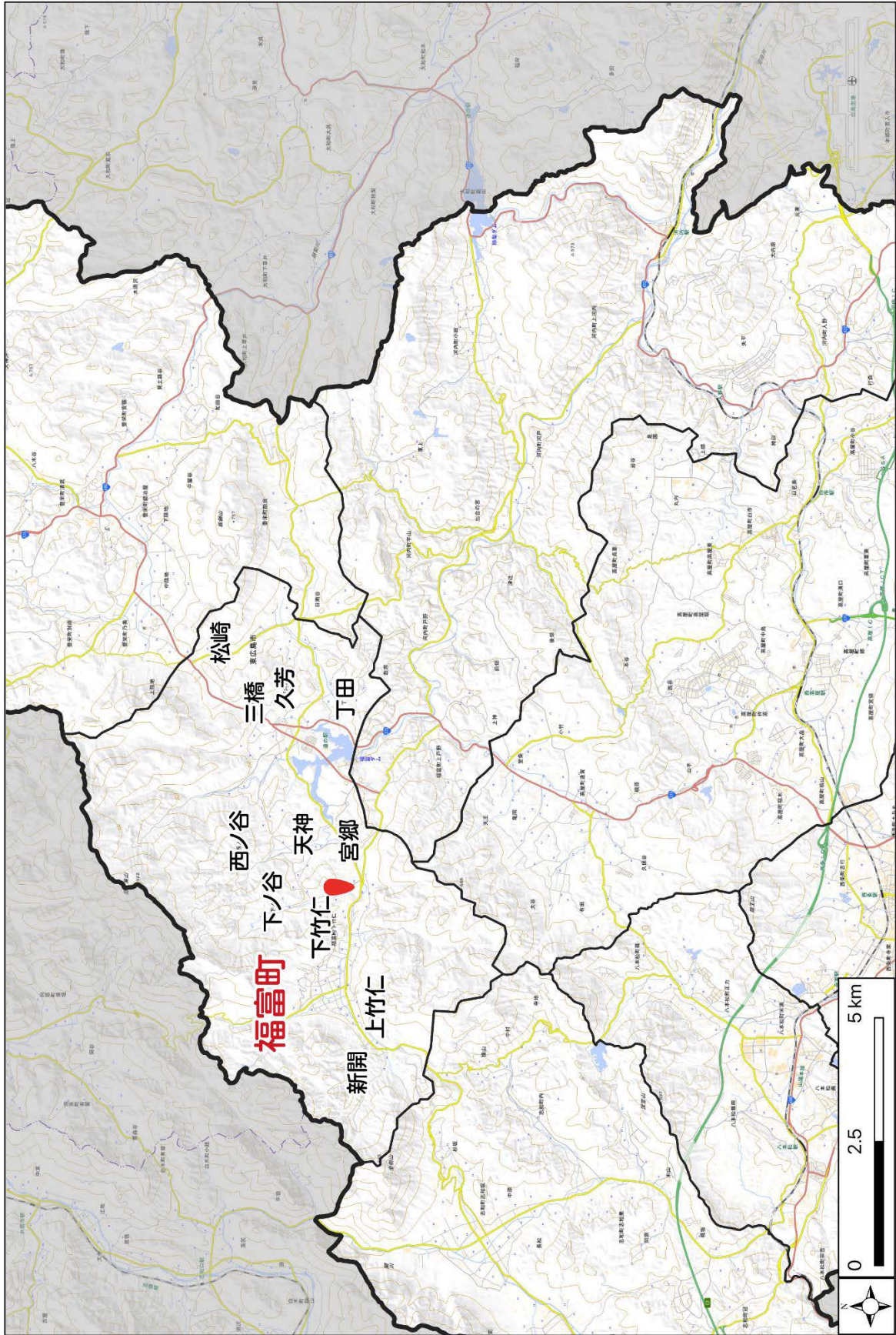
名前 ()

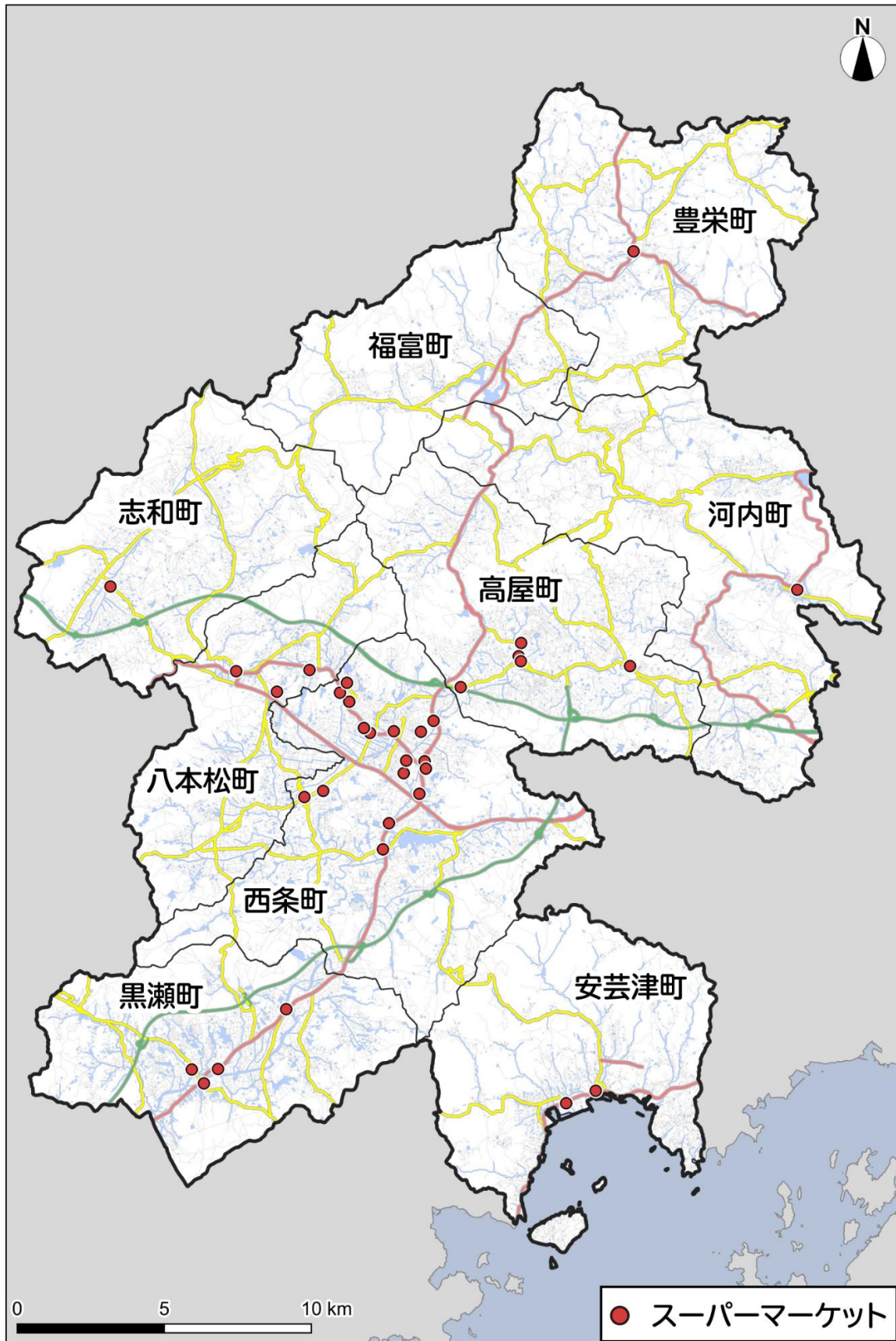
めあて

スーパーマーケット



ふりかえり







4. 実施報告

※以下、文章と写真は [EVRI ウェブサイトの開催報告記事](#)より引用、一部改変。

※開催報告動画は [YouTube チャンネルにてご覧頂けます](#)。

開催報告記事はこちら 	YouTube チャンネルはこちら 
---	---

◆ 7月15日：「スーパーと直売所、どこが違う？どこが同じ？」

2021年7月15日に、東広島市内小学校13校(西条, 板城, 吉川, 西志和, 東志和, 小谷, 平岩, 高美が丘, 三ツ城, 板城西, 乃美尾, 中黒瀬, 龍王)の3年生(910名程度)が参加し、東広島の「お店」をテーマにした授業を実施しました。今回は、「スーパーと直売所の小売店としての特色を理解し、それを的確にあらわしたキャッチフレーズを提案できること」を目標としました。1時間目は、スーパー、直売所それぞれのようすを中継で観察しました。子どもたちは、1日あたりの客数や販売されている食品の種類・産地、売り場の広さなどを比較しながら中継を視聴し、それぞれのお店の特徴を捉えていきました。その後、直売所で買い物中のお客さんにインタビューを試みました。わざわざ西条から福富まで車に乗って直売所を訪ね、野菜を買っている理由を尋ねることで、スーパーと比べて商品の数も種類も少ないが、人々を引き付けている直売所の魅力について学ぶことができました。

2時間目は、1時間目に観察したことを踏まえ、スーパーと直売所の魅力を表すキャッチフレーズを考案しました。スーパーのキャッチフレーズには、便利さや産地の幅広さ(地元から世界まで)が表れていました。一方、直売所のキャッチフレーズを作った子どもたちは、野菜の新鮮さや手作り商品へのこだわり、地域の活性化に注目していました。最後に、子どもには「どちらかのお店だけでいいんじゃない？(2種類もいらないよ!)」と揺さぶりをかけました。この命題への賛否とその理由を示す活動を通して、消費者に多様な選択肢が保証されていることの意義を学びました。

2時間の学習を通して、「普段よく行く」スーパーと「あまり行ったことのない」直売所を知り、それぞれの小売店としての目的の違いを言語化するとともに、小売店と消費者との関係について認識を深めることができました。



広島大学にて授業をする様子(草原先生)



本授業のめあて



スーパーでのインタビューの様子
(宇ノ木さんと大川さん)



スーパーの売り場の様子



直売所でのインタビューの様子
(水脇さんと川上さん)



直売所の売り場の様子



直売所の工場の様子(豆腐を揚げる機械)

直売所

地元愛がたくさんつまった直売所
～できたて・新せん・もりだくさん♡～

児童の考えたキャッチフレーズ



授業後に子どもたちの質問に
答えてもらう様子(水脇さんと草原先生)



授業後に子どもたちの質問に
答えてもらう様子(大川さんと草原先生)

※しゃくなげ館の水脇さん, ショージの大川さんには, 氏名と写真の掲載の許可をいただいております。

5. 児童用アンケートの結果

広域交流型オンライン社会科地域学習 2021年7月 児童用アンケートの結果（自由記述）

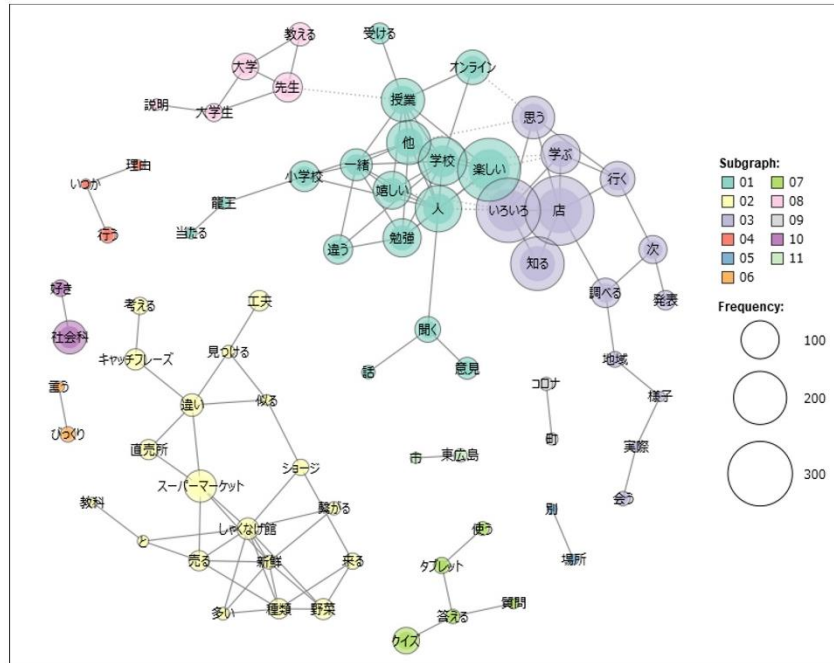
【分析の手続き】

- 広域交流型オンライン社会科地域学習（2021年7月実施分）に対する児童の意識を探索的に明らかにするために、アンケート問7「感想を教えてください。」への回答についてテキストマイニングによる分析を行った。なお、回収したアンケート862通に対して、問7への回答を記述していたものは838通であった。
- 分析には、KH Coder (Version. 3. Beta. 03d) を用いた。
- 分析対象となる児童の記述のうち、次の語句については事前に修正を施している。①明らかに誤字・脱字として認められるものは、正しい表記に修正した。例えば、「スーパーマーケット」は「スーパーマーケット」に直している。②漢字・仮名交じりで表記が揺れている語句は漢字表記に統一した。例えば、「野菜」、「野さい」、「やさい」は全て「野菜」に直している。③同義と考えられる語句は統一した。例えば、「めっちゃ」、「とても」はともに程度が大きいことを表す副詞と解されるため、「めっちゃ」を「とても」に合わせた。④繰り返し表現は除した。例えば「とてもとても」は「とても」に修正した。⑤そのほか、一部の表現をより妥当な処理ができる形へと修正した。例えば、「お店のことを知れた。」という文において、「知れた」は、「知る」の可能形ではなく、「知れる」の過去形とソフトウェアは判断する。そのため、これを「知ることができた」に修正した。
- 分析の際、複合語は一語として処理した。例えば、「直売所」は「直売」「所」ではなく、「直売所」として処理した。
- 以上の設定で、①抽出後リストの作成、②共起ネットワーク（＝単語が同時に出現する関係性を示したものの）の作成を実行した。

抽出語リスト（総計上位50語）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
店	347	勉強	101	違う	57	違い	33	発表	24
いろいろ	298	嬉しい	98	次	53	意見	31	初めて	23
楽しい	285	行く	83	クイズ	47	しゃくなげ籠	30	今日	22
知る	204	オンライン	82	大学	47	キャッチフレーズ	29	詳しい	21
学校	165	社会科	76	たくさん	46	受ける	28	大学生	20
人	151	スーパーマーケット	70	インターネット	46	野菜	28	友達	19
他	137	一緒	69	聞く	44	工夫	27	考える	18
授業	131	小学校	63	見る	37	種類	26	好き	17
思う	125	先生	58	学習	35	直売所	26	ショージ	16
学ぶ	107	調べる	58	教える	35	売る	26	タブレット	16

共起ネットワーク



(註) Jaccard 係数が 0.1 以上の共起関係を示した。

円の大きさは語句の出現頻度を、線は共起関係を示す。円の位置や、円間の距離に意味はない。

【分析に対する簡単な考察】

- 「楽しい」や「嬉しい」といった情意語の頻出は、本学習への好意的な受け止めを表している。
- 「楽しい」や「嬉しい」といった語は「他」「違う」「一緒」という語と共起している (=Subgraph 01) ことから、児童は他校の児童との学習を好ましく感じているものと推察される。
- 頻出語として上位にある「店」「いろいろ」は互いに共起しており、「知る」「学ぶ」とも共起関係にある (=Subgraph 03)。では、具体的には何をどのように学んだか。それは Subgraph 02 に表れている。つまり、「キャッチフレーズ」を作ったり、「スーパーマーケット」と「しゃくなげ館」の共通点・相違点を見つけたりすることによって、商品の「種類」や「新鮮さ」を認識したと推察される。
- また、「店」は「調べる」とも共起している。さらに、「調べる」は「次」や「地域」—「様子」—「実際」—「会う」とも共起していることから、今度は自ら調査に出たいという児童の意欲が窺える。
- 感想として、「タブレット」で「クイズ」に答えたことを記述した児童 (=Subgraph 07), 「大学」の「先生」や「大学生」が来たことを中心に記述した児童 (=Subgraph 08), 「社会科」が「好き」になった児童 (=Subgraph 10) も一定数散見される。

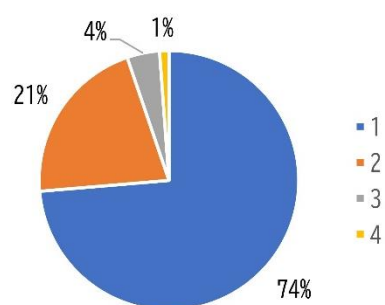
以上

広域交流型オンライン社会科地域学習
2021年7月 児童用アンケートの結果（量的データの単純集計）

総計

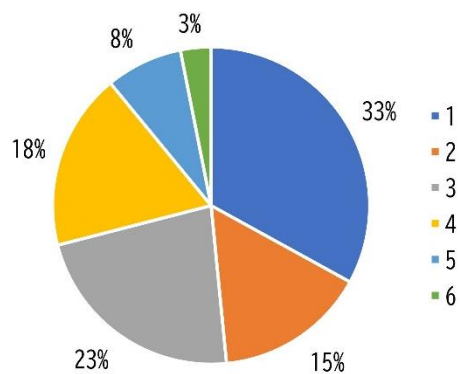
問1 「お店」について学んだじゅぎょうは、どうでしたか。

回答の選択肢	人数（名）
①とても楽しかった	635
②すこし楽しかった	182
③あまり楽しくなかった	35
④楽しくなかった	10
計	862



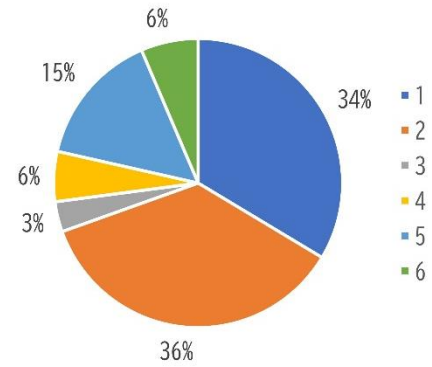
問2 問1で①と②と答えた人に聞きます。なぜ「楽しかった」のですか。

回答の選択肢	人数（名）
①いろいろな店を知ることができたから	265
②店のちがいをキャッチフレーズに表すことができたから	124
③店の人の話を聞いたり、ようすを見たりできたから	181
④ほかの学校やクラスと考えをつたえ合うことができたから	145
⑤パソコンをつかって答えることができたから	63
⑥どれでもない	25
計	803



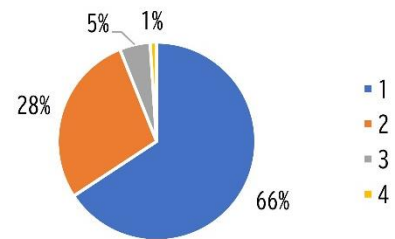
問3 じゅぎょうの後、どんなことを考えましたか。

回答の選択肢	人数（名）
①地いきについて、もっと調べたくなった	288
②いろんな所に行きたくなった	308
③話し合いをしたくなった	29
④東広島のために自分に何ができるかを考えるようになった	48
⑤社会科が好きになった	129
⑥どれでもない	55
計	857



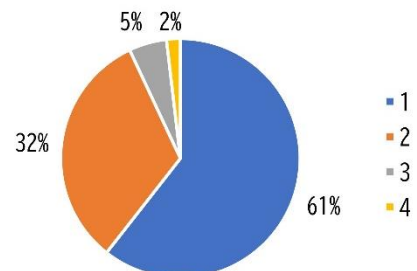
問4 ほかの学校の友だちとっしょに学ぶじゅぎょうは、どうでしたか。

回答の選択肢	人数（名）
①もっとやりたい	566
②ときどきやりたい	243
③あまりやりたくない	43
④やりたくない	9
計	861



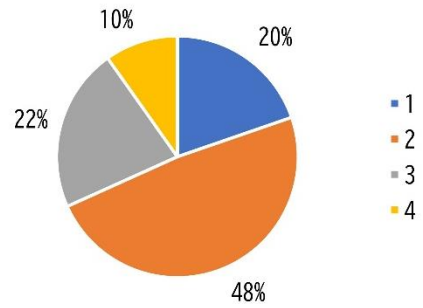
問5 大学の先生や大学生が行うじゅぎょうは、どうでしたか。

回答の選択肢	人数（名）
①もっとうけたい	521
②ときどきうけたい	279
③あまりうけたくない	44
④うけたくない	16
計	860



問 6 校外に出かけるじゅぎょうとくらべて、どうでしたか。

回答の選択肢	人数（名）
①店に行って学ぶほうがよい	169
②できれば店に行って学びたい	416
③インターネットでもよい	188
④インターネットのほうがよい	84
計	857



（註）複数回答は無効回答として処理した。

6. 担当者・協力者一覧

◆ 企画・運営機関

広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)
草原 和博 (人間社会科学研究科・教授)
宇ノ木 啓太 (教育研究推進員)
大坂 遊 (教育研究推進員)
草原 聡美 (教育研究推進員)
吉田 純太郎 (教育研究推進員)
岩佐 佳哉 (大学院 教育学研究科・博士課程後期)
川本 吉太郎 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程後期)
今井 祐介 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
川上 由美 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程前期)
正出 七瀬 (教育学部 第二類 社会系コース)

◆ 連携・実施機関

東広島市教育委員会学校教育部
教育総務課情報教育推進室
沖 秀治 (室長)
三井 成宗 (室長補佐兼係長兼指導主事)

◆ 協力者

シヨージ寺家駅前店 杉原 忠行 様
シヨージ寺家駅前店 大川 和男 様
福富物産しゃくなげ館 水脇 正司 様

◆ 資料作成・提供

岩佐 佳哉 (大学院 人間社会科学研究科・博士課程後期)
15 頁(福富町の地名としゃくなげ館の位置)
16 頁(東広島市内のスーパーマーケットの分布)

EVRI 研究プロジェクト叢書 Vol.9

2021 年度東広島市広域交流型オンライン地域学習
－ 2021 年 7 月実践「スーパーと直売所、
どこが違う？ どこが同じ？」－

発行日 2022 年 3 月 31 日

編著者 草原和博・大坂遊・宇ノ木啓太・草原聡美・
吉田純太郎

編 集 広島大学教育ビジョン研究センター (EVRI)

印 刷 (株)ニシキプリント



EDUCATIONAL
VISION
RESEARCH
INSTITUTE